第１学年　国語科　学習指導案

日　時　平成20年11月６日(木)５校時
学　級　１年Ａ組（30名）
場　所　１年Ａ組教室
指導者　新井野　房枝

１　単元名　　古典との出会い　「竹取物語」

２　単元について

(1)　教材観

本単元は「いろは歌」「竹取物語」「今に生きる言葉」の三つから構成されており、生徒が中学生になって初めて出会う古典として、古典を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てることをねらいとして設定されている。本教材「蓬莱の玉の枝」は千年以上もの時を超え、現代にも読み継がれている物語であり、竹取の翁が竹から見つけたかぐや姫の成長と、帝や貴公子の求婚と失敗、かぐや姫の月への帰還が主なストーリーであり、登場人物を通して、美しいものへの憧れや人間の持つ欲望、喜びや悲しみなど、当時の人々のものの見方や考え方が伝わってくる作品である。音読を通じて原文のリズムに慣れさせ、登場人物の喜びや悲しみなど、今も昔も変わらない人間の心情に触れさせることで、古典に興味と親しみを持たせることができる教材であると考える。また、「今に生きる言葉」では、昔の人が実生活の中で生きる知恵として大切にしてきた言葉が今も用いられていることに気付かせることで、古典が身近なものであると感じることができると考える。

(2)　生徒観

本学級の生徒は、理解力、表現力、語彙力共に個人差が大きい。単純な質問には積極的に反応する生徒であっても、少し難しいと感じる問いに対しては、深くじっくり考えることが苦手で、発言や記述は勘に頼っていたり、根拠や正確さに欠けていることが少なくない。ノートを確実にとることができない下位の生徒も数名おり、声がけや支援が必要である。逆に、理解力のある女子の数名は、語彙が豊富で読み取りも深いが、控えめである。そのため、その発言の深さや奥行きを他の生徒が正しく聞きとったり、そのすばらしさに気付いたりすることができず、全体のものにできないと感じることもある。

一学期から、隣同士、小グループでの学習活動を取り入れてきたので、共に音読をしたり、考えを交流することには抵抗なく取り組めるようになってきている。「友達の考えや発言で、新しいことに気付いたり、なるほどと思ったりすることがあるか」というアンケートには、８割を超す生徒が「とても（あるいは）そう思う」と答えており、「考えの交流の場」が意義を持つものと感じている。

古典の学習に関わっては、「かぐや姫」のお話については、８割の生徒が何らかの知識を持っていたが、「知らない」と答えた生徒も数名いた。

この単元では、音読を多く取り入れ、古文の持つリズムに読み慣れる活動から、物語や故事のあらすじをつかむことにつなげたい。また、現代の私たちに通じる古人の心情を考えさせ、長い時を隔ててなお、私たちの心に共感を呼び、生活に生き続けているということに気付かせることで、古典に興味を持たせていきたい。

(3)　指導観

古典入門の教材であることから、音読の活動を多く取り入れて読みの抵抗を少なくし、内容を

読み取らせていきたい。また、現代語訳を手がかりにして、物語や故事のおもしろさをとらえさせながら、当時の人々の生活や登場人物の思いを考えさせ、はるか遠い時代のその心情が、現代に生きる自分たちと変わりがない身近なものであることに気付かせたい。その際、生徒個々の気付きや考えを交流することにより、多様な読みに出会わせ、新たな発見や考えの深まり、修正・変更へとつなげることで、読みを深めさせたい。故事成語では、「矛盾」以外の言葉の調べ学習を取り入れ、中国古典の世界が身近なものであることを知ると共に、興味や関心を持たせたいと考える。

3　単元の指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

・言葉遣いや仮名遣いの違い、古典の持つリズムなどに興味や関心を持ち、進んで古文を読もうとする。

・古人のものの見方や考え方にふれ、自分のものの見方や考え方を広げようとする。

【読む能力】

・原文を音読し読み慣れると共に、そこに描かれている人々のものの見方や考え方を読み取り、自分のものの見方や考え方を広げることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

・歴史的仮名遣いや古語と現代語の意味の違いについて理解し、古文のリズムを感じて音読することができる。

・名句名言、故事成語の由来や意味を理解し、用いることができる。

4　単元の指導計画

1 時　「いろは歌」の音読　内容理解

2 時　導入　「竹取物語」のあらすじの確認　冒頭部分の音読と内容把握

3 時　冒頭部分の音読と内容理解　現代文の部分の内容理解

4,5時　くらもちの皇子の冒険談の部分の音読と内容理解

6 時　くらもちの皇子の性格・行動・心情についての考えの交流

7 時　教科書に登場しない他の皇子の話と現代文の部分のストーリーの確認

8 時　最終部分の音読と内容把握　帝の心情(ものの見方や考え方)について各自の考えをまとめる

9 時　帝の心情(ものの見方や考え方)について…＜本時９／11時＞
　　小グループ・学級で考えを発表し、交流しあい、再び個人の考えをまとめる。

10 時　故事成語、矛盾についての音読と内容理解

11 時　故事成語についての調べ学習

5　本時の指導

(1)　目標

残された帝の心情と、それについての自分の考えを交流し合い、自分の考えをより深めてまとめることができる。(読む能力)

(2)　具体の評価規準

	十分満足できると判断される状況(A)	概ね満足できると判断される状況(B)	努力を要する生徒への指導の手だて
読む能力	帝の心情について、他の考えを聞くことで、新たな発見や気付きを見いだし、複数の視点から自分の考えをまとめている。	帝の心情について、他の考えを聞くことで、新たな発見や気付きを見いだし、それをもとに自分の考えをまとめている。	友達の考えをよく聞くように話し、その中から、新しく気付いたことを問いかけ、メモをしてみるよう声がけをする。

(3)　本研究との関わり

本時の授業において、「学び合いの活動の場」を次のように設定した。

「帝の心情やものの見方・考え方と現代や自分のものの見方・考え方とを比較して感想をまとめる」場面で新たな視点・発見を共有し、より広がりや深まりのあるものの見方や考えをもてるよう、

学び合い　　グループ内での話し合いの場の設定

学び合い　　学級全体での考えの交流の場の設定　　とした。

また、個の確かな学習の場を保証するため

個人１回目のまとめ ⇨グループ ⇨学級全体 ⇨ 個人２回目のまとめ　の形をとり、

個々の生徒の考えが、学級の他者の多様な読みに出会うことによって、そのかかわりの中で個々の内部に読みの変容（深化・発展・補充・修正）を生じさせたい。また終末で再び個人の考えをまとめる場を設定し、さらに隣の人と読み合うことで、読みの変容を認め合わせ、発見の喜びや感動､成就感を自覚させることで、生徒の学ぼうとする意欲を育てていきたいと考える。

本教材の前時までの「学び合い活動」

６時　「くらもちの皇子」の性格・行動・心情ついての考えの交流　の場で

○「くらもちの皇子」の性格・行動・心情について

１　根拠となる古文・口語訳を示しながら、「くらもちの皇子」の性格・行動・心情を読み取り、それについてどう思うかについて、個々に学習シートにまとめよう。

２　小グループで、上記の内容について、考えを発表し合い、グループの考えをまとめよう。

３　学級で、小グループの考えを発表し合い、多様な考えや見方を交流し合おう。

４　２，３の交流を経て、再び、「くらもちの皇子」の性格・行動・心情、それについてどう思うかについの個人の考えをまとめよう。

という、流れで授業を行う予定である。

８時　本授業の前時　では、本時９時の学習内容「帝」の心情についての考えの交流に大きくかかわり、

○「帝」の心情について

６時と同様に、まず個人の考えを書かせる。そこでは教科書本文では省略されている部分についても生徒に提示し、帝の心情をとらえさせたい。読みとりの手がかりとして、下記の古文からいくつかをあげて帝の悲しみに気付き、個々に自分の感想をまとめさせたいと考える。

＜手がかりとなる古文＞		＜期待する、また、考えられる読みとりの例＞
いといたくあはれがらせたまひて	⇨	とても悲しんでいる
ものもきこしめさず	⇨	ものも食べられないほど
御あそびなどもなかりけり	⇨	楽しそうなこともする気になれない
和歌１　なみだにうかぶ･･･	⇨	ちょっと大げさだけど、涙にくれている
２　死なぬ薬もなににかはせむ	⇨	姫のいない世では長く生きていても･･･
いづれの山か天に近き	⇨	少しでも姫に近いところ
燃やすべきよし	⇨	メッセージを届けたい、姫との決別、心の整理

(4)　本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項 （◆学び合い活動　◎評価）
導入 5 分	1　音読 2　既習事項の確認 3　学習課題の把握	・学習課題を把握する。	・元気よく音読できているか。
	かぐや姫が去った後の帝の心情と感想を交流し合い、自分の考えを深めよう。		
展開 3 分	4　個人の発表準備 〔個人〕	・帝の心情とそれに対する感想を見直し、発表準備をする。	・前時の個々のまとめを見直し、発表の準備をする（心構え） ・根拠となる古文・口語訳を示しながら帝の心情を述べ、それに対する自分の感想をもっているか。
10 分	5　グループで話し合い　〔グループ〕	・グループでそれぞれの考えを述べ合い、聞き合う。 ①帝の心情について ②そういう帝をどう思うか	◆グループ内で、一人ずつの考えを述べ合い、交流し合う。その後、それらを学級全体に伝える準備をする。　【小グループ】
15 分	6　学級全体での発表　〔全体〕	・各グループの考えを学級全体の場で交流し合う。 ①帝の心情について ②そういう帝をどう思うか	◆新しい発見や気付きをメモしながら各グループの発表を聞き合う。　【全体】
10 分	7　交流後の個人のまとめ　〔個人〕	・それまで気付かなかったことや、新しい考えを取り入れ、また､同じような考えであっても、根拠や表現に深まりや広がりが出るようにしてもう一度考えを書く。	◎【読む】友達の考えや意見を聞くことで新たな発見や気付きを見いだし、それをもとに自分の考えをふくらませて文章にまとめることができたか。
5 分	8　相互評価 〔ペア〕	・隣の人と新しく書いた感想を読み合い、変容（広がりや深まり）が見られているかどうかを評価し合う。	・隣の人の感想を読み、評価し合う。
終末 2 分	9　本時のまとめ	・静かに話を聞く。	・静かに話を聞けているか。 ・古典を読むことへの意欲付けにしたい。